

## 2021年3月期第3四半期 決算説明会・主な質疑応答

決算説明会での主な質疑応答を掲載しています。

開催日時：2021年2月4日（木）

### <ご留意事項>

「主な質疑応答」は、説明会での質疑をそのまま書き起こしたのではなく、ご参加いただけなかった方々向けに、当社の判断で簡潔にまとめたものです。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

### 映像事業

Q：来期黒字化の自信を教えてください。

A：今後のコロナ影響が不透明な中、B2Cビジネスである映像事業の将来予測は特に難しいものがありますが、来期は全事業セグメントで黒字化を目指す中、映像事業についても黒字化を達成したいと考えています。

足元の新製品の販売好調をいかに持続するか、市場回復のなかで他社新製品とどう差別化するか、ニコンファン以外の若年層を含む新たな顧客層の開拓、など課題もありますが、プロ・趣味層にご満足頂けるミラーレスラインアップの拡充を続けながら、売上の拡大を図ってまいります。

同時に、構造改革を進めることで損益分岐点を引き下げる方針であり、足元、構造改革は順調に進捗しています。

Q：業界全体に比べて、ニコンの減収が大きくないか。

A：当社は、プロ・趣味層向け中高級機やレンズにフォーカスして開発やラインアップ拡充等を進めています。

価格競争の激しい初級機の割合が大きい市場全体のシェア・台数よりも、自分たちが主戦場と考える中高級機やレンズ市場でのシェアや台数にこだわってビジネスを展開しています。

こうした戦略により、今回の第3四半期決算のように、全体シェアは低下していても、平均販売単価を上昇させることで、売上収益を拡大することは可能だと考えています。

併せて、構造改革を進めることで経費を抑制し、売上が1,500億円以下でも黒字が可能な事業体質へ転換を図ってまいります。

## 精機事業

Q：Intel 新 CEO 就任による、ビジネスへの影響をどう見るのか。

A：特定顧客の動向については回答を差し控えますが、主要顧客とは引き続き、緊密に連携しています。

半導体需要が高まるなかで、当社が主力とする ArF 液浸露光装置に対する需要は、今後も底堅く推移すると考えており、その環境下で主要顧客とのビジネスの維持・拡大を図るとともに、新規顧客開拓にも注力しています。

加えて、検査・測定等の半導体露光装置周辺ビジネスも拡大することで、精機事業全体の収益性向上を目指してまいります。

## 全体

Q：前回決算で計上した下期のリスクバッファー▲50 億円は最新見通しに含まれるのか。

A：今期はバランスシート改革に注力しており、第 4 四半期には、追加の評価損等を計上する可能性があります。こうしたリスクに備えるためのバッファー▲50 億円を計上した上で、全社営業利益の通期見通しを▲650 億円としています。

以 上